

会

ス

マ

ス

リ

ク



写真・市谷 健「ベストメンバーなんだよ！」

なかまがいて

緑濃い山に囲まれたしずかな湾に真珠の養殖いかだ。四国最南端、足摺岬も近い愛媛県愛南町に一軒のダスキンの店があります。平川みどりさんはこの店に四週間に一度、松山市から列車とバスを乗り継ぎ二時間以上かけて帰ってきます。ミカン農家をやめて長年夫婦同居したけれど、四十軒のお客様とも店の仲間とも離れられないと戻ってくるのです。「引き合わないでしょう」と云うと、店を経営してきた河野ヤスミさんが、「続けたい、生き甲斐を取り上げないで、って言うんですよ」と笑っていました。

店をひらいて三十年、いまも女性ばかりだけれど、昔はもって「おんなの職場」だったとか。「まるで保育園のような頃もあったんですよ」。お母さんの代わりにおむつも換えた、事務所で泣く子のおんぶなどいつものこと。働いている人の子どもたちは「ただいま」と、学校から店へ帰ってくる。高校生になって店で掃除のアルバイトをした子もいたし、母親からお客様を引き継いでいる人が何人もいます。自分も娘にバトンタッチして、いま河野さんが励んでいるのは仲間とのフラダンス。平川さんもその一人で、老人会の集まりや催しなどで踊っています。仕事の少ない町で、少しでも働きたいという女性の場をと思って続けてきました、河野さんはそう語っていました。

株式会社ダスキン会長

伊東英奇

no.498

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

僕のふるさととは…

『ドクター・コトー診療所』の舞台にもなった甌島。過疎化を乗り越え、最近はマスクミでもよく取り上げられるようになっていきます。

僕は一九四四年、甌島に生まれた。父は漁師だった。KOSHIKI島はどこにあるのか？ 字からして読むのが難しい。甌島は、鹿児島県の桜島から目を左へ(中国側へ)平行移動すると、本土から30キロ沖の東シナ海上にポツンと浮かぶ三つの島である。年中暖かく、雪はほとんど降らない。降ったとしても、フライパンの上のようにすぐ溶ける。

僕が小学生の頃(昭和二十年代)までは、ブリやイワシの大漁で島はにぎわっていたのだが、半世紀後の今は過疎状態。

かつて全島二万四千人の人口が今は五千七百人に、僕の住む下甌島の鹿島町でも三千人から五百三十人に激減し、母校の小・中学校が廃校寸前なのだ。

しかし、平成の大合併で本土の薩摩川内市に統合してから、ビッグニュースが立て続けに起きている。今まで三十年間も陳情し続けた下甌島と中甌島を結ぶ橋の建設許可が下り、十年後の橋の完成に向けて、工事中なのである。

下甌島のトシドン(大晦日の行事)がユネスコ無形文化遺産に登録され、わが鹿島町では、七千万年前の地層から恐竜の骨の化石が発見されるという驚くべき事態になっているのだ。

上甌島では「甌島で、つくる。」KOSHIKIアート展が若者を中心に毎年開かれている。観光スポットはたくさんあり、海の青さや透明度はどこにも負けていない。

過疎の島から躍動する島へと、大変貌の予感がする島なのである。



絵と文 版画家 中野洋一

版画家。陶彫家。鹿児島県生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や陶彫を制作。1995年に朝日新聞日曜版のカットを連載。オランダ国際版画工ナール展入選など国際的にも活躍。

フライパンひとつで簡単。パン作り 「抹茶あずきパン」

オーブンを使わずにフライパンで焼き上げる簡単レシピ。パンといってもしっとりモチモチとした食感のままに「ナン」。香り豊かな抹茶とやさしい甘さのあずきが美味しさを引き立てます。ぜひ一度お試しを！



お料理研究家 こいけりえ

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



◎作り方(6枚分)

●生地を作る

ボウルの中に強力粉150g、薄力粉50g、砂糖10g、抹茶小さじ2、塩少々、ドライイースト小さじ1の順番で入れる。一番上のドライイーストにかかると約40℃のお湯を130mlかけて、手でひとかたまりになるように混ぜる。40℃はお風呂のお湯くらいの温度で、手を入れると温かく感じる程度。

粉っぽさがなくなり一つにまとまるような状態になったら、まな板の上のせて、手のひらのつけ根でグッと押し付けるようにしてよく練り合わせる。生地が手につかなくなり、ツブツブがなくなったら出来上がり。

きれいにまとめて、とじ目を下にしてボウルに入れ、生地が乾燥しないようにボウルの上からラップをかぶせる。40℃くらいのぬるま湯を入れた大きめのボウルに、生地を入れたボウルを入れて、約20分そのまま浮かべておく。生地が1.5倍くらいに膨らんだらOK。

膨らんだ生地の中に茹であずき大さじ2を加えてあずきが全体に行き渡るように練る。まな板に生地をたたきつけてガス抜きを



ラップをかぶせて40℃くらいのぬるま湯にかぶせる

できあがり



6等分に切り分ける

したら、再度生地をまとめる。切りやすいように、打ち粉をしたまな板の上で6等分に分けて形を整え、10分くらい休ませる。

●フライパンで焼く

形は三角に整える。丸でも四角でも形はお好みで。火の通りを考え、薄めにするのがコツ。フライパンにサラダ油適量を敷いて熱し、中火で両面をこんがり焼いたら完成です。アツアツの出来立てが美味しいです。

同じ分量で抹茶とあずきを抜いたら「ナン」の出来上がり。カレーのときも手作りで！

みてもらおう！



「気分はかわいいウサギちゃん」
埼玉県毛呂山町 小林延代

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



「なんか、しんみり、あったかいの」
宮城県登米市 星名直子



インパクト・メイクで「がおう！」
千葉県四街道市 石田優文子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！
(詳細は7ページ)

そって

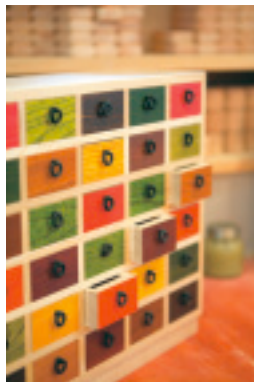


「囲碁の盤にもなるカツラ材のおもちゃ。飾っても遊んでも楽しめる形にしました」



「ヒノキはおだやかな触感を求めて磨きます。そこまでしなくてもという人もいますが、手ざわりって愛情でしょ」と寺内さん。

神奈川県丹沢産の建材の生産時に余る端材を使い、同県で活躍してきた作家が、ヒノキで木のおもちゃを作り始めた。昔からあるおもちゃなのに、新しい。なぜ？に惹かれて、作家の寺内さん（48歳）を工房にお訪ねした。



30のお話をしまえる「ひめひきだし」。海で拾った貝殻、山で見つけたドングリとか。

木が好きな寺内さんのホントの話

寺内建さんは父の「寺内定夫の木のおもちゃ」を引き継ぎ、創業から約半世紀、「国産材を使い、日本の職人の手で作る」をモットーにしてきた。北海道のカツラを主に、ブナやケヤキ、ヒバを使っている。

しかしカツラは、伐採できる木があと20年ほど待たないと手に入りにくくなっているそうだ。

「ぼくが小さい頃、父親が作ってくれたんです」と見せてくれた新幹線ひかり号は、乗って遊んで、小さな手でなでた歳月のツヤが出て、どっしりした輝きに満ちている。固くて頑丈そう。ところが、渡されて驚いた。軽い！子供が持つて遊べる軽さなのだ。

「カツラ材の特色です。いいでしょう？」ああ、このひとは木が好きなのだ。そういう笑顔だった。「ぼくの子も乗ったし、孫もきつと遊ぶでしょうね」

今、工房にあるヒノキのおもちゃは丹沢檜で、諸戸林業の木材だ。創業約150年（本社・三重県）の林業会社が国産材の需要の低迷に困り、丹沢ヒノキのおもちゃを提案してきたのが発端だったそうだ。

寺内さんは言う。「住宅用建材が実際は余っているんです」「え？」「本当なんです。国も業界も言っているから、僕も声を大にして言っても良いと思います」



日本の木と森に寄り

ヒノキのおもちゃをコラボ・作家と林業会社が発信



柄ごとまる彫りだから丈夫なフライパン。ガス台はダンボールで手作りしたとか。



森林を守ろうとか、間伐材なら使つていいというのは、頭で考えたことかもしれないと思わされた。木を使わないと、森を守るのになかなか難しいのだ。

戦後復興以降に植林された多くの山の木は、収穫期を迎えているが、売れないために山に放置されていることも多いとか。「もっと国産材を使うように知恵をだしあって、得た資金を山に還元するべき時代なのです」

「100年以上も森林の手入れをしてきた先人達にもうしわけない」と諸戸林業から寺内さんに連絡してきて言つたそうである。そこから始まった「ヒノキのおもちゃ」のコラボなのだ。

ヒノキの肌ざわり

「ヒノキは赤っぽい色をもつて上とする」寺内さんに言われて初めて知つた。ひわだ色はほんのり赤みがさす和の色。「あかちゃんつみき」に使われている。

おもちゃでいろいろな木を扱ってきた寺内さんが「ヒノキは美しくて繊細で気むずかしい」と言う。柔らかさがかえって難しかった。削ると欠けたり、磨くのにも慎重さが必要。木目の美しさを保つため、上塗りはハゼの木の実からとる油を使っている。

「触ってみて」といわれて手に持つと、またまた驚いた。このおもちゃの秘密は人の肌のように磨きこんだヒノキの、おだやかな手ざわりにある。磨く前の木片とは異なるしっとりくるような温かさ。

「あかちゃんが産まれるから、自分で磨きたい」と、こだわるお客さんには磨き方を手ほどきするそうだ。木のある暮らしはおちつく。日本人だもの…。人の肌と木の肌は似ているのかもしれない。

そう思つてふと見た寺内さんの手。小さなものをていねいに扱つて愛おしんできた手である。ごつくなく繊細でもなく、柔軟な力にあふれていた。

ほ



ほ



え



み



の



ひ



ろ



ば



プレゼント

鹿児島県さつま町 大野ひつる

今年もまたクリスマスがやってきます。あれは息子が小学5年生の時です。名前の頭文字が入った暖かそうなトレーナーをプレゼントしました。でも、なぜかあまり嬉しくなそうに、「なんでウチはいつも生活用品なの？」内心ドキツとして、とうとう気付かれたと思いつつ、「そんなに文句言うなら、もう来年からなしね」と私は布団へ。ゲーム機が欲しかったのかな。でも姉と妹もいるし、そんなに余裕はない…。

あくる朝、テーブルの上に小さな紙切れ。

『昨日はワガママ言っでごめんなさい。トレーナー着てみたら良かったです。また来年もよろしくお願いします』胸が熱くなりました。その息子も昨年に成人。本当に早いものです。

——こい子だなあ。



その瞬間

福岡県飯塚市 森山律子

友人宅に行く時のストレスは、サクゴしに吠えまくるご近所の犬。名前はココ。やつぱり怖い。先日、友に会いに行くとき、いつもより一段と激しく吠えるココに遭遇。しかし、ココの目線は私にはなく、愛用のソフトボールに行っていた。転がって取れないんだ。ココの焦りが一瞬で伝わってきた。ボールがどんなに大事か目が語っていた。私は意を決して近づき、ボールがココに届くように慎重に蹴った。するとココは前足を必死にかけて、ボールをキャッチ！その瞬間、私とココはなんだかホツとしたのだ。

帰宅後、夫にその一件を話すと、「これから絶対に吠えなくなるよ」と断言。その言葉どおり、次に通ると「この間はどうも」といった表情でおとなしい。最初は偶然かもと半信半疑だったが、二度三度と会っても、別人ならぬ別犬かと思えるほどに穏やか。話せなくても仲良くなれるんだと、不思議で嬉しい体験でした。

——ちよこはスキップしたくなる発見々



友よ

岩手県紫波町 熊谷勝子

65歳の同窓会の知らせが届きました。私はいつも参加しているのですが、幼なじみの照ちゃん、ご主人の入院と両親の介護で33年前から欠席。今回は32年ぶりの参加です。両親を送り、ご主人も落ち着き、「行って来い」と…。

それを聞いた私は嬉しくて、当日は照ちゃん、最寄の駅まで車で迎えに行きました。彼女は携帯がないので「着いたら電話して」と約束し、10円の公衆電話で3度もやりとり。やっと会えると、嬉しいやら、おかししいやら。夜は2人でゆつくりしゃべり、気付いたら夜明けでした。

彼女はご主人が倒れ、両親の介護をしながら、一人朝早くに起きて、新聞配達を20年続けてきました。あと10年ではできると言っていました。今は息子と理容業をしながら、孫の世話もしているそうです。頑張っている友を見ていたら、農家の経営がづらいなんて、言えない私でした。弱音をはかないでいこうと思いました。

——朋有り、遠方より来たる。また楽しからずや。



お兄ちゃん

岩手県一関市 熊谷七重

多忙の夫、妊娠中の私、子供は5人。中一の長男が幼稚園の親子レースに「仕方ないなあ」と言いながら出てくれ、本当に助かりました。

いざお昼という時になって大騒ぎ。なんとスズメバチが飛んできたのです。小さい弟の所に来たハチを、慌てて手で追い払おうとした長男。その耳元にハチがチクリー「痛っ！」

すぐに病院に行き、注射と点滴を受けながら、大事には至りませんでした。点滴を受けながら、「オレで良かったんだよな、小さい弟達や妊娠中の母ちゃんだったら大変だったもんな」と言ったのだと、付き添ってくれた母から聞き、思わず涙がこぼれました。優しいお兄ちゃん、これからも頼むわね！

——頼りがい、あゝな〜

まず自分から
自分だけのことを考えている人には、
行きづまりがきます。
人と仲良くしたいと思うなら、先手必勝、
まず自分からやる事だ。
キゲンの悪い人にも、
こちらからキゲンよく話しかける。
おこっている人にはまず、おわびをする。
相手がどうであろうと、
常に自分の方から誠意を示す。
それこそ、悔いのない人生を送るには、
自ら先に相手のためにつくす事だ。

鈴木清一

「かんどー！ なのだ！」



岐阜県関市 漆畑和子

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた原
稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

日本最大級の環境展示会
エコロダクツ2010

開催日: 2010年12月9日(木)~11日(土)
時間: 10時~18時(最終日17時)
場所: 東京ビッグサイト
東展示場

「エコロダクツ2010」の
携帯サイトはこちら



ダスキンプースを出展。
今年は「ダスキンエコ劇場！」

暮らしのシーンを再現したス
テージとある家族がダス
キンのエコを楽しく紹介!そ
の他、エコ数字クイズステ
ージなど、楽しいコーナーが盛
りだくさん!是非、皆さまで
ご来場ください。

- 2ページの中野洋一さんのアトリエ
〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203
- 4-5ページの連絡先
木のおもちゃのてらうち・てのひらえほん
電話: 042-708-8415 FAX: 042-737-3241
〒195-0056 東京都町田市広袴3-27-13
ホームページ: <http://www.tenohiraehon.com>



遠い日の歌

札幌市 土田えい子

子供の頃はラジオのない生活でした。小学1
年生の秋に左腕を骨折し、1ヶ月の間、一人で
入院してしまいました。農家だった実家は、毎日
忙しく、通院することは出来なかったからです。
病院にはラジオがあり、私にはとても珍しい
ものでした。そこから毎日何度も何度も流れ
ていた歌が「お山の杉の子」でした。
今まで生きてきた中で、嬉しいとき、苦しい
ときなど、なぜかふと口ずさんでいる歌です。
生後8ヶ月で母を亡くした私にとって、一生の
子守歌だったのかもしれない。
「これこれ杉の子起きなさい。お日さまニコニ
コ声かけた声かけた」この部分が一番好きです。
今も歌っています。
——明るく励みます歌。



お月さま

宮崎市 末吉静子

仲秋の名月を福岡の息子宅で迎えたときの
ことです。もうすぐ3歳になる孫と一緒に、ま
あるい月を眺めていると
「おばあちゃん、今日のお月さま、こわれてな
いね」と言うのです。孫にとっては、三日月や
欠けている月は壊れた月らしいのです。子供の
発想って面白いですね。
私の住む宮崎では、昔は、十五夜の晩になる
と子供達が各家庭を回り、「お月見下さい」と言
ってお供えやお菓子などをもらいに来ました。
いつの間にかその風習もすたれてしまい、当
時が懐かしく想い出されます。月へロケットが
飛ぶ時代になった現在、「鬼の餅つき」のロマン
をいつまでも持ち続けたいと思う私です。
——満月の夜は、心も澄みわたる…。

♡は〜とふるボイス♡

～国境を越えて広がる輪～

社会福祉法人日本ライトハウスに勤務する私は
11年間にダスキン・アジア太平洋障害者リーダ
ー育成事業を通じて14人の視覚に障害のある
若者に出会いました。彼らはアジアで「学校に
も行けず、福祉の制度も受けられない仲間の方
になりたい」と強く願って来日。学ぶ意欲に溢れ、
日本語の勉強をしながら盲導犬の歩行体験や
音声ソフトを使ったホームページ作りなどさま
ざまなトレーニングを積んで帰国します。彼ら
が国境を越えたネットワークを築き、一人ひと
りが尊重される社会をつくるお手伝
いを、これからも続けていきたいです。

●京都市 竹下 巨



このコーナーについては、
広げよう愛の輪運動基金まで。

☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)

DUSKIN
喜びのタネをまこう



BAKETSU

shushu



(審査員)川柳作家
やすみりえ氏



SHIRITORI

粗大ごみ 今日あなたは貴重品
北海道 床拭きカーテン

おばあちゃん 指示するはずが主戦力
福岡県 ころん

ノーマイク 妻の気合いが伺える
東京都 酒井具視

第3弾 大賞受賞作品

大掃除 川柳

第4弾

大掃除にまつわる
出来事や想いを
テーマにした川柳を
募集します。

ダスキン大掃除川柳コンテスト

応募期間 / 2010年11月15日(月)～2011年1月11日(火)

◎たくさんのご応募、お待ちしております。

パソコン <http://575.duskin.jp> 携帯電話 <http://575.duskin.jp/m>



携帯サイト

- 応募方法
- ①パソコン・携帯のサイトからの応募:ダスキン大掃除川柳コンテストホームページ(パソコン・携帯)内の応募フォームを活用ください。
 - ②郵送での応募:〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33 (株)ダスキン 大掃除川柳コンテスト事務局
 - ③ファックスでの応募:ファックス番号 06-6330-2688 お掛け間違いのない様をお願いいたします。
※川柳作品と必須項目(住所・氏名・ペンネーム・性別・年齢・電話番号・メールアドレス)をご記入、または、入力しご応募ください。

応募点数 1回につき3作品までご応募いただけます。別作品であれば何度でもご応募いただけます。

◆お問い合わせ/ 株式会社 **ダスキン** 広報・広告部 ダスキン大掃除川柳コンテスト事務局 TEL.06-6821-7856(受付時間 月～金 10:00～17:00)※土日祝を除く

ダスキンのお客様係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索



携帯からも
アクセス

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。

お楽しみクイズ

年末にする大がかりな掃除を
何という? (ひらがなで)

お お



正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

- ◆ハガキに
 - ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
 - ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記であつまでお送りください。
 - ◆締め切り 平成22年12月24日(金)当日消印有効
 - ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
 - ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成23年1月下旬お届け予定)
 - ◆あて先 〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係
 - ◆応募に関するお問い合わせ TEL:03-5909-6703
- ※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

第496号のクイズの答えは「資源」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行: 広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集: 「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp